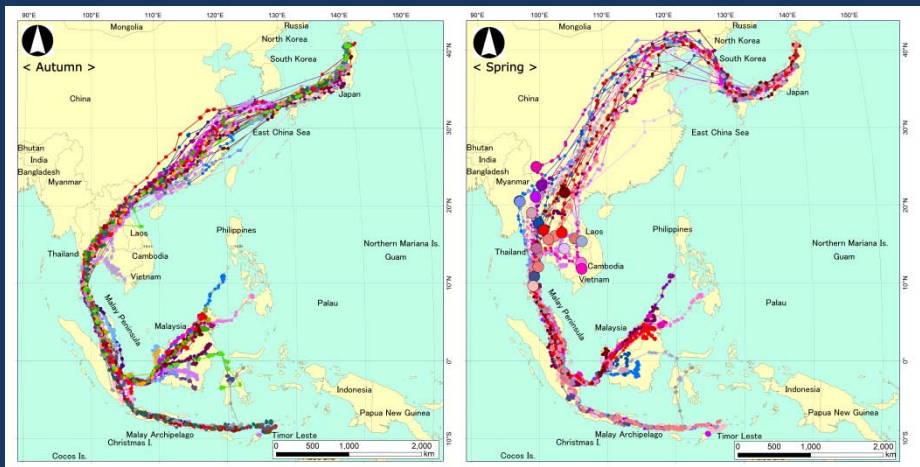


講演と音楽

世界の 自然と自然、 人と人を つなぐ渡り鳥



水彩画:長島 充



ハチクマの春秋の渡り

2015年9月13日(日) 午後1時~5時

会場: 東京大学弥生講堂一条ホール

参加費: 1,000円(当日支払)。申し込み要: 裏面参照、先着300名

★此岸と彼岸をつなぐ渡り鳥—宮沢賢治「銀河鉄道の夜」の世界
杉浦嘉雄(日本文理大学教授)

歌:「星めぐりの歌」(作詞作曲・宮沢賢治) 山口由里子(ソプラノ)、鍋嶋 芳(ヴァイオリン)、富樫亜紀(チェロ)

★北と南の離散家族をつないだ渡り鳥—アリランの青い鳥、シベリアムグドリをめぐる物語
遠藤公男(児童文学者)

歌:「アリラン」(朝鮮半島民謡) 山口由里子(ソプラノ)、鍋嶋 芳(ヴァイオリン)、富樫亜紀(チェロ)

★世界の自然と自然、人と人をつなぐ渡り鳥—渡り鳥の衛星追跡研究の成果から
樋口広芳(東京大学名誉教授、慶應義塾大学特任教授)

スライド映写と音楽(バッハ:G線上のアリア) 鍋嶋 芳(ヴァイオリン)、富樫亜紀(チェロ)

開催の趣旨: 渡り鳥はいくつもの国にまたがって移動する。その過程で、鳥たちは異なる地域の自然と自然をつないでいる。一方、渡りの過程で、鳥たちは経路沿いの人と人をもつないでいる。異なる国や地域で、同じ鳥の群れをながめ、見つめる人たちがいる。渡り鳥の保全をめぐる、いろいろな国や地域の人たちが協力している。まさに、渡り鳥に国境はない。渡り鳥をめぐる人々の心にも国境はない。

この講演会では、「世界の自然と自然、人と人をつなぐ渡り鳥」をテーマに、渡り鳥をめぐる人と自然の織りなす世界を描きたい。天の川を渡る鳥の夢の世界から、南北朝鮮の離散家族をつないだ鳥の実話、衛星を利用した最新の研究から明らかになったことがらまで、多様な話題が登場する。また、それぞれの話題の合い間には、かわりのある美しい調べの音楽が挿入される。参加者は、壮大な鳥の渡りへの理解を深めつつ、感動に満ちた時を過ごすことになるに違いない。

演者と演奏者



杉浦嘉雄

早稲田大学卒業。日本鳥類保護連盟などを経て現職。九州で「南の国のイーハトーブ」をめざし、生物多様性を重視した地域づくりを実践。主著「賢治鳥類学」、「社会と環境教育」など。



遠藤公男

小学校教師をしながら、コウモリの3新種を発見。韓国の鳥学者と親交を結ぶ。元日本野鳥の会宮古支部長。主著「原生林のコウモリ」、「ツグミたちの荒野」「韓国の虎はなぜ消えたか」など。



樋口広芳

東京大学大学院博士課程修了。米国ミシガン大学動物学博物館客員研究員、東京大学大学院教授などを経て、現職。主著「鳥たちの旅」、「生命にぎわう青い星」、「日本の鳥の世界」など。



山口由里子

ソプラノ歌手。東京藝術大学卒業。ウィーンにて研鑽を積み、国内外のコンクールに入選。「魔笛」や「こもり」などのオペラから第九まで多岐にわたり、ソリストを務める。二期会会員。



鍋島 芳

同志社女子大学音楽科卒業、特別専修生終了。在学中、テレマン室内楽団と共演。第2回熊楠の里音楽コンクールヴァイオリン部門第3位。現在ソリストや室内楽、オーケストラなどで活躍中。



富樫亜紀

チェロ奏者。東京音楽大学卒業後、さまざまな出会いを通してクラシック以外の音楽にも興味を持つ。現在、ジャンルにとらわれない活動を展開中。台東区ジュニアオーケストラ・トレーナー。

●会場地図と交通アクセス

地下鉄南北線 東大前駅 徒歩1分
地下鉄千代田線 根津駅 徒歩8分

- 主催: 「世界の自然と自然、人と人をつなぐ渡り鳥」実行委員会
- 企画・構成: 樋口広芳
- 全体統括: 飯塚利一
- 事務局: 斉藤ヒロコ、水村春香
- 司会・進行: 森本亮子

- 申し込み: 電子メール wataridori.office@gmail.com
電話090-4711-9892、FAX:046-267-4591

